

文部科学省における 自殺対策の取組について

令和7年1月31日(金)
第8回こどもの自殺対策に関する
関係省庁連絡会議

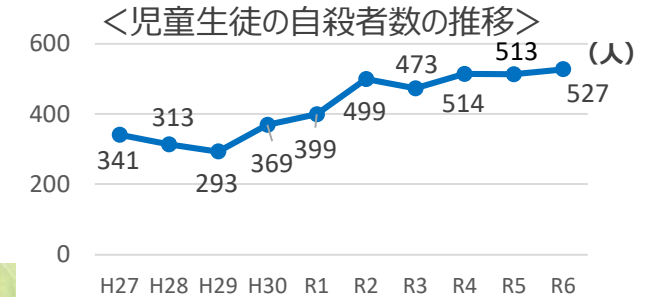


児童生徒の自殺対策の推進について

令和7年度予算額（案） 86.1億円の内数
 （前年度予算額） 84.1億円の内数

現状・課題

- 令和6年の児童生徒の自殺者数は527人（暫定値）と過去最多を更新する見込みであり、児童生徒の自殺対策の強化は、喫緊の課題。
- 令和5年6月に政府において取りまとめた「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づき、1人1台端末等を活用した「心の健康観察」による自殺リスク等の早期把握やSOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育の充実、SC・SSWの配置充実・SNS相談体制の整備等教育相談体制の充実を図ってきたところ。



出典：厚生労働省「自殺の統計：各年の状況」
 【注】令和6年は暫定値

これまでの主な取組

- H21年 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」作成
- H22年 「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き」作成
- H26年 「子供に伝えたい自殺予防－学校における自殺予防教育導入の手引き－」作成
 「子供の自殺が起きたときの背景調査の指針」改訂
- H30年 自殺総合対策大綱の改定等を踏まえて「SOSの出し方に関する教育」等の推進に係る通知を发出
- R03年 児童生徒向け自殺予防の啓発動画作成公表／「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」審議まとめを公表



（児童生徒向け自殺予防啓発動画）

※例年、長期休業前後には、大臣メッセージ发出・自殺予防に係る広報・普及啓発活動等を実施

令和7年度予算額（案）



- **自殺予防教育のモデル構築・啓発資料の普及促進** 【R7予算額（案）：10百万円（10百万円）】
 ・令和6年度において作成したモデル例や啓発資料の普及促進を図るため、学校に対する授業支援や外部専門家を活用した研修を実施

- **「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会」の開催** 【R7予算額（案）：4百万円（4百万円）】
 ・教育委員会担当者、学校の管理職等への研修会、全国10ブロックで開催



- **スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実** 【R7予算額（案）：86億円（84億円）】
 ・SC・SSWの配置及び重点配置校数の拡充（自殺予防教育実施の支援を含む）

- **SNS等を活用した教育相談体制の整備推進** 【R7予算額（案）：86億円の内数（84億円の内数）】
 ・SNS等を活用した相談のための相談員の配置



1 現状・課題

- 令和6年の児童生徒の自殺者数は527人（暫定値）となっており、引き続き、極めて憂慮すべき状況。
- 文部科学省としては、これまで、SOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育について、通知の発出や各種研修会等のあらゆる機会をとらえて周知を行ってきた。
- しかし、自殺予防教育については、これまで国において標準的な指導内容や教材等を示しておらず、各学校等における実情に応じて実施されてきた状況。
- そのため、令和6年度委託事業において、学校が自殺予防教育を実施するに当たり、活用できる教材や指導資料の作成等を実施。

2 事業概要

- **令和6年度委託事業で作成の教材や指導資料等を全国の学校に確実に普及**させるため、都道府県・指定都市教育委員会において、自殺予防教育のモデルとなる地域や学校を指定し、自殺予防教育を十分に実施できていない学校に対する**授業の支援**を実施。
- 自殺予防教育を実施する際には、教員1人1人が事前に正しい知識を身に付けておくこと、心理学的知見等に基づく確かなフォローアップ体制を整備しておくことなどが必要不可欠であることから、**外部専門家を活用した研修等**を実施する。

3 委託先・採択数

委託先
都道府県・指定都市教育委員会（10箇所）

委託内容
諸謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費 等

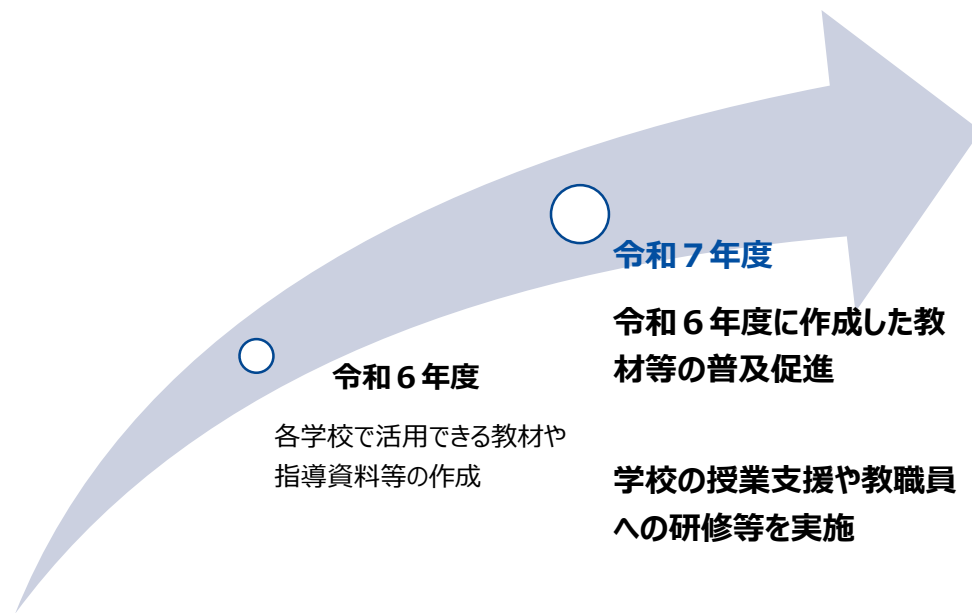
4 事業により目指す姿

各学校において、自殺予防教育を実施する際に、教師1人1人がいつ（学年・時期）、どこで（教科等やその他の教育活動）、どのような内容を教える必要があるのかについて、イメージを共有し、実践することができるようになる。

- 児童生徒が自殺予防教育を受けることを通じて
- ①自殺の深刻な実態や心の危機のサインを知ること
 - ②相談することの大切さや援助機関を知ること
 - ③悩みや不安を抱える友達に寄り添うことの大切さやそのための行動を学ぶこと
- などを旨す。



全国の学校における自殺予防教育の実施をより強力に推進することで、自殺の危険が高まった児童生徒が自らの心の危機に気付くこと、誰かに助けを求めることに繋がり、自殺を予防する効果が期待できる。



（担当：初等中等教育局児童生徒課）

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー による教育相談体制の充実

令和7年度予算額（案）
（前年度予算額

86億円
84億円）



文部科学省

- ◆ 不登校児童生徒数が、小・中学校で約35万人、そのうち学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が約13万4千人と、いずれも過去最多となり、また、いじめ重大事態の発生件数も1,306件と過去最多となる中、誰一人取り残されない学びの充実を一層推進する必要がある。
- ◆ 近年、児童虐待相談対応件数が増加傾向であること、「こども性暴力防止法」の趣旨等を踏まえ、性的虐待を含む学校における児童虐待の未然防止・早期発見や、児童虐待発生時の迅速・的確な対応に向けた相談体制の充実、同じく増加傾向であるヤングケアラー支援や貧困対策についても喫緊の課題。
- ◆ 児童生徒の抱える課題の早期発見・支援のため、関係機関と連携して、学校が情報を共有し、教育相談にチームとして取り組むための体制整備を支援。



スクールカウンセラー等活用事業

令和7年度予算額（案） 6,212百万円（前年度予算額 6,085百万円）
事業開始年度：H7～（委託）、H13～（補助）



スクールソーシャルワーカー活用事業

令和7年度予算額（案） 2,428百万円（前年度予算額 2,355百万円）
事業開始年度：H20～（委託）、H21～（補助）

補助制度

- ・ 負担割合：国 1 / 3、都道府県・政令指定都市 2 / 3
- ・ 実施主体：都道府県・政令指定都市
- ・ 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等

求められる能力・資格

- ・ 児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する者
⇒ 児童の心理に関する支援に従事（学教法施行規則）
- ・ 公認心理師、臨床心理士等

基盤となる配置

- ・ **全公立小中学校**に対する配置：27,500校 <週4時間>

重点配置

・課題に応じた配置の充実

- **重点配置校** **11,300校**（← 10,000校）<+週4時間>
 - > **いじめ・不登校対策**： **7,000校**（← 5,700校）
 - > **虐待対策**： **2,000校**
 - > **貧困対策**： **2,300校**

上記以外の質の向上、拠点の機能強化等

- ・ スーパーバイザー： **67人** <週4時間>
- ・ 教育支援センター： **250箇所** <週4時間>
- ・ オンラインによる広域的な支援： **67箇所** <週40時間>
- ・ **自殺予防教育**の実施を含む

SC配置以外の支援

- ・ SNS等を活用した相談のための相談員の配置
- ・ 「24時間子供SOS電話ダイヤル」の相談員の配置
- ・ 専門性向上のための研修・連絡協議会の開催に係る経費の支援

- ・ 負担割合：国 1 / 3、都道府県・政令指定都市・中核市 2 / 3
- ・ 実施主体：都道府県・政令指定都市・中核市
- ・ 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等

- ・ 福祉に関して専門的な知識・経験を有する者
⇒ 児童の福祉に関する支援に従事（学教法施行規則）
- ・ 社会福祉士、精神保健福祉士等

- ・ **全中学校区**に対する配置：10,000校区 <週3時間>

- **重点配置校** **11,000校**（← 10,000校）<+週3時間>
 - > **いじめ・不登校対策**： **5,000校**（← 4,000校）
 - > **虐待対策**： **2,500校**
 - > **貧困対策**： **2,500校**
 - > **ヤングケアラー支援**： **1,000校**

- ・ スーパーバイザー： **67人** <週3時間>
- ・ 教育支援センター： **250箇所** <週3時間>
- ・ オンラインによる広域的な支援： **67箇所** <週40時間>

<重点配置について> 学びの多様化学校や夜間中学への配置を含む。
重点配置のメニューは重複活用可

<配置の工夫について>

自治体の配置の工夫により、週8時間以上の配置も可能（特に、いじめ・不登校等困難な課題を抱える学校や学びの多様化学校を想定）

（担当：初等中等教育局児童生徒課）

S N S 等を活用した相談体制構築事業

背景

- いじめを含め、様々な悩みを抱える児童生徒に対する相談体制の拡充は、相談に係る多様な選択肢を用意し、問題の深刻化を未然に防止する観点から喫緊の課題。
- 座間市における SNS を利用した高校生3人を含む9人の方が殺害された残忍な事件をきっかけに、それ以降もスマートフォンの普及が進んでいるなか、最近の若年層の用いるコミュニケーション手段においては、SNS が圧倒的な割合を占めていることから、それを踏まえた相談体制の整備を図る必要がある。

(参考)

主なコミュニケーション手段の平均利用時間 (令和6年度版情報通信白書 (総務省))
[平日1日] (令和5年度)

10代 : 携帯電話 3.9分、固定通話 0.0分、ソーシャルメディア 56.0分、メール利用 15.6分

事業概要

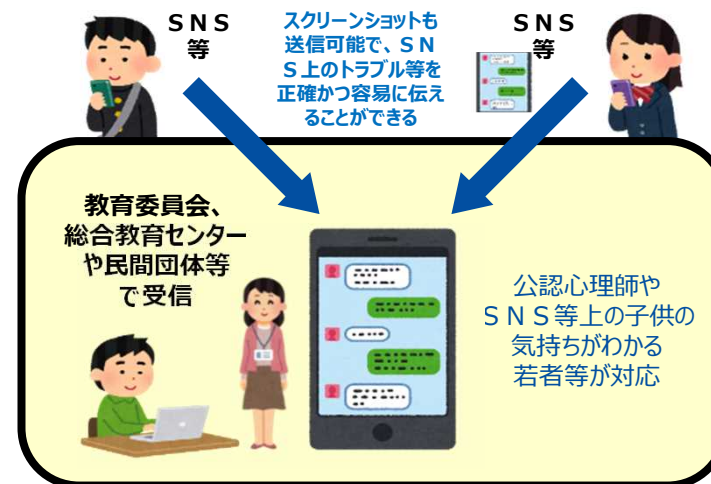
SNS等を活用した相談体制の整備に対する支援 (補助事業)

(事業内容)

SNS等を活用した双方向の文字情報等による相談を実施するとともに、相談員の専門性を向上させる研修の実施等を支援。

令和3年度より、支援の対象を全ての都道府県・指定都市に拡大。

【イメージ】SNS等を活用した相談



(例) 自殺をほのめかす等、命に関わる相談の場合の連絡の流れ



実施主体

都道府県・指定都市

対象校種

小学校・中学校・高等学校等

費用負担

国 : 1 / 3
都道府県・指定都市 : 2 / 3

対象経費

報酬、期末手当等

1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入推進

- 不登校やいじめ、児童生徒の自殺が増加する中、児童生徒のメンタルヘルスの悪化や小さなSOS、学級変容などを教職員が察知し、問題が表面化する前から積極的に支援につなげ、未然防止を図ることが必要
- 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）、「こどもの自殺対策緊急強化プラン」（令和5年6月）等を踏まえ、1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、早期発見、早期支援につなげる「心の健康観察」の全国の学校での実施を目指し、各学校における導入を推進
- 引き続き、通知や各種会議等を通じて導入を促進するとともに、学校のICT環境整備3か年計画（2025～2027年度）において、1人1台端末を活用した児童生徒の学校生活を支援するツール（例：児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、支援するツール）の整備に必要な経費について、地方財政措置が講じられる見込み

「心の健康観察」の導入を進めている教育委員会等の声

A教育委員会

- 令和4年4月から域内の全小学校高学年及び中学校で有償アプリを導入
- 市全体での相談件数は、アプリ導入前は教育委員会宛のメール相談のみ実施しており、年間で50件ほど。アプリ導入後は約680件に増加し、いじめの認知件数も導入前約20件⇒導入後約110件と増加した。
- 相談内容はいじめに限らず、自傷行為や自殺念慮に関わるものもある。児童生徒が抱える悩みなどを早期発見が可能になり、早い段階から寄り添った対応が行えるようになっている。

B教育委員会

- 令和3年4月から、域内の全小中学校でGoogleフォームを活用した「心の健康観察」を実施
- 導入以降いじめの認知件数が増加しており、導入前の令和2年度は約40件⇒導入後の令和3年度は約270件、令和4年度は約420件となっている。
- 個別事案では、長期休業中に、児童生徒から家庭のことで訴えがあり、即座に児童相談所、警察に連絡し、早期対応につなげた事案があった。
- 児童からは、「今は知っておいてもらうだけでよい」といった相談も多く、児童生徒にとって気軽に相談しやすくカウンセリング効果が高いツールと考えている。

その他教育委員会等から寄せられた声

- これまでは、個々の担任教諭の主観で児童生徒の変化を把握していたが、アプリを活用し、数値で捉えることができるようになったので、ケース会議や児童生徒理解の材料として活用できている。
- 導入校では、不登校の新規発生が前年度の同時期と比較して半数以上減少している。

「心の健康観察」の導入イメージ（千葉県教育委員会の例）

- 児童生徒へのwebストレスチェックを通じて、心身の状況を把握、担任教諭等にフィードバック
- ストレスチェックの結果は児童生徒や保護者にもフィードバックし、ストレスへの気付きを促す
- 高ストレスの児童生徒を早期発見し、SC・SSW等とも連携しつつ、カウンセリング等を通じて支援
- 必要に応じて、医療機関や児童相談所等の関係機関の支援につなげる

1 最近のあなたの気持ちや体の調子についてうかがいます。下の各文章を読んで、自分にもっともよくあてはまると思うところの数字1つを○で囲んでください。

	全然あてはまらない	1	2	3	よくあてはまる
1 悲しい気分だ。	0	1	2	3	
2 怒りっぽくなる。	0	1	2	3	
3 いらいらしたことに自信がない。	0	1	2	3	
4 何となく心配だ。	0	1	2	3	

2 あなたは、ここを休みのうちに、下記に書いてあるようなことが、どのくらいあてはまるかを、下の各文章を読んで自分にもっともよくあてはまると思うところの数字1つを○で囲んでください。

	全然なかった	1	2	3	よくあつた
1 自分は悪くないのに先生に叱られる。	0	1	2	3	
2 友だちから悪が来る。	0	1	2	3	
3 授業の内容が楽しくない。	0	1	2	3	
4 連絡先を変えようと言われる。	0	1	2	3	

3 あなたは、まわりの人たちが、あなたどのくらいあてはまるのに対して感じていて、下の質問について、それぞれの人の心にもっともよくあてはまると思うところの数字1つを○で囲んでください。ただし、あてはまる人がいない場合はその数字0として答えください。

	全然あてはまらない	1	2	3	よくあつた
あなたが元気な時	0	1	2	3	
1 親の場合	0	1	2	3	
2 担任の先生の場合	0	1	2	3	
3 友だちの場合	0	1	2	3	